

原子力リスク研究センター（NRRC） 第17回 技術会議 議事録

1. 日 時：2017年9月1日（金）09：30～12：00
2. 場 所：電力中央研究所 大手町本部 役員大会議室
3. 出席者（順不同、敬称略）
 - 主査：横尾（NRRC）
 - 委員：勝海（北海道電力）、飯塚（東北電力；加藤代理）、川村（東京電力HD）、伊原・名倉・中川（中部電力）、米原（北陸電力）、鈴木・原口・田中（関西電力；吉原代理）、林（中国電力）、黒川（四国電力）、井上（九州電力；岡野代理）、石坂（日本原電）、岡村（日本原燃）、鞍本（電源開発）、四柳（東芝）、今野（日立GE）、山岸（三菱重工）、倉田（原安進）、高橋・示野・白井・梅木・稲田・山本（NRRC）
 - オブザーバー：尾野（電事連）、アポストラキス・メザーブ・尾本（NRRC）

4. 議事概要

(1) 2018年度研究計画（案）について

○NRRCより、2018年度研究計画（案）について報告がなされた

（主なコメント ◆外部委員、◇電中研委員）

- ◆今年度、浜岡4号機津波PRAプロジェクトに取り組んでいく上で特に考慮すべき点など、検討が進んでいれば教えてほしい。
- ◇今年度は大きな流れとして全体シナリオを検討していく。現在は、建屋の浸水についてどのような経路を押さえるかといったことを議論している。一方、要素技術の開発は並行して進め、それを全体シナリオの検討に組み入れるのは2018年度からになる。
- ◇津波PRAプロジェクトは大規模で多岐に渡り、またリスク評価分野と自然外部事象分野の両方が関わる。引き続きご相談しながら進めていきたい。

(2) NRRCの活動状況について

○NRRCより、2018年度のリスク情報活用推進チームの活動計画（案）について報告がなされた。

- ◆PRA高度化に向けたパイロットプロジェクトを進める中で、最終的に得られた知見はどのように標準化して共有していくのか。

◇得られた知見を基に推奨される手順のガイドラインをまとめて、各電力会社が使えるようにしたい。

◇各電力会社のスタッフがパイロットプロジェクトの海外専門家レビューに陪席し、進捗状況をフォローしている。PRA整備を早く進めなければならない中で、随時情報共有を進めている。

(3) 所長との意見交換

○再稼働した原子力発電所の安全性向上評価書や、事業者PRAモデルの規制との共有などについて意見交換を行った。

以上